

第109回医師国家試験対策委員会の活動報告

委員長 知 念 徹（5年次）

納涼の候、琉球大学医学部同窓会会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。同窓会会員の皆様をはじめ、臨床、基礎の先生方など大学に携わる数多くの人々の支えがありこうして勉学に集中して励むことができる事に感謝申し上げます。

さて、改めまして私、第109回医師国家試験対策委員会の委員長を務めさせて頂いております、知念徹（ちねんいたる）と申します。よろしくお願い致します。

早速ですが、国家試験対策委員会を存じていらっしゃる先生方もいらっしゃるかと思いますので、近年の我々国試対策委員の活動を少し紹介させていただきたいと思っております。普段我々は5、6年生の勉強に対する意欲向上と国家試験合格率の上昇を目指した活動、また今年受験を控える先輩方の勉強面でのサポートを行っています。現在の国試対策委員は5年生約50名で構成されています。その仕事内容は6年生の模試受験の代金振込から受験会場手配のサポート、ビデオ講座の申し込みや参考書の配布、国家試験当日の会場での昼食の手配や受験会場の待機室の整備などがあり、これは代々受け継がれてきた仕事です。それとは別に近年では新たに国対委員が毎週1問の国家試験問題とその解説を図書館に掲示するという「今週の1問」という取り組みを始めました。この試みは主に国家試験を控える5、6年生の勉強に対する意欲を早期から高めてもらおうという意図で始めました。また、ビデオ講座の進行度を名簿の個人欄に記入する「進捗表」というものも去

年から導入しています。これも同学年同士の勉強の進行度を目に見える形にして、上記の「今週の1問」と同様に、勉強に対するモチベーションを高める目的に導入しています。我々国試対策委員は普段このような取り組みを行っています。

話は変わりまして今年、琉球大学医学部医学科は新卒の国家試験合格率が去年の90.8%から98.9%にまで上昇しました。この要因について考えているところ、もともと模試の結果を見る限り今年の新卒生は例年と比して模試の成績が良かったこと、また一昨年から新たに導入された「総合試験」が大きく関わっていると考えています。学生の間ではこの総合試験難しい試験であることは周知されており、残念なことにこの試験を通過することができずに毎年数名の人が留年していますが、難しい試験であるからこそいち早く対策に乗り出し、勉強する姿勢が強く感じられているのも事実です。今後はこの試験で留年するものを減らし、いかに国家試験合格率の上昇につなげていくか、国試対策委員で分析し取り組んでいきたいと考えています。

末尾になりましたが、我々学生は大学に携わる数多くの人々の支えがあって、勉学に集中して取り組むことができます。その感謝の気持ちを忘れず、また琉球大学医学部のOBとして立派な医師となるため努力する先輩方を後押しすべく、国試対策委員は精一杯頑張っていく所存です。今後とも応援のほどよろしくお願い致します。

末筆ながら、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

